

百名山自然ガイド <sup>たん ざわ</sup> 丹沢

<sup>とうのだけ たんざわさん ひるがたけ</sup>  
春の塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳

山頂の標高:1491m・1567m・1673m

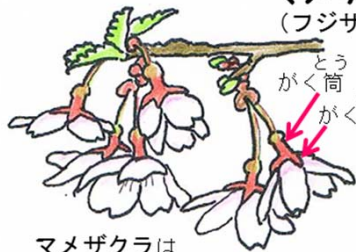
# マメザクラとそれに似ている花

## チヨウジザクラ



マメザクラよりもさらに  
小さな花びらです  
葉は、おもしろい形を  
しています

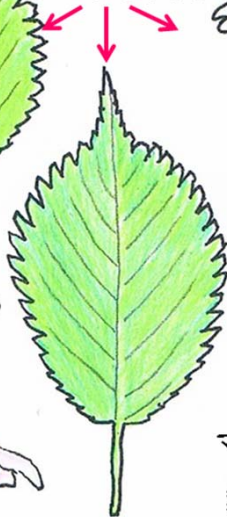
## マメザクラ (フジザクラ)



とう  
がく筒 へん  
がく片

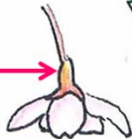
マメザクラは  
小さい花びらと  
濃い赤い色のがく  
(がく片とがく筒)  
が特色です

葉のふちには  
大きなぎざぎざ



## タカネザクラ (ミネザクラ)

マメザクラのがく筒の付け根  
はふくらんでいます、タカネ  
ザクラはふくらんでいません



3cm

## 春の丹沢には：マメサクラ(フジサクラ)がいっぱい

- 丹沢の春を代表する花といえば、まず名前をあげたいのはマメサクラです。春、丹沢の山道では、枝いっぱいには花をつけたマメサクラが私たちを迎えてくれます。マメサクラは丹沢や富士、箱根などでよく見られる桜(さくら)の木で、フジサクラという名前でも呼ばれます。
- マメサクラの花は、主に下向きに咲きます。花びらの後にある「がく」と呼ばれる部分は濃い赤い色をしていて、その色は、うすいピンクの花びらの色と合わせて、印象的です。
- マメサクラは、木も花も小ぶりです。花びらの大きさはさしわたし1cmくらいで、街(まち)に植えられているソメイヨシノの半分くらいです。他の木が育ちにくい岩場などにも生えていますが、そういう所では背が低かったり、幹(みき)が細くて斜めに傾いていたりします。
- マメサクラの満開は、ふもとではソメイヨシノとほぼ同じで、3月終わりか4月初めころです。それからだんだん高い所へ場所が移り、年によってずれますが、山頂部での満開は4月終わりか5月初めころです。

# オオシマサクラの花



10cm

桜の葉のいろいろ  
大きさや形が少しずつちがいます

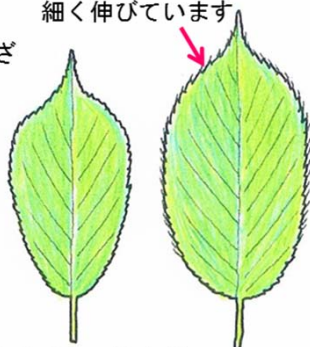
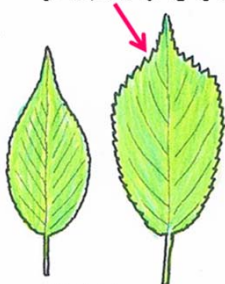
白い大きな花びら

## オオシマサクラ

ぎざぎざの先が  
細く伸びています

カスミサクラ  
少し大きなぎざぎざ

ソメイヨシノ  
タカネサクラ



マメサクラ チョウジサクラ

ヤマサクラ  
少し細い

オオヤマサクラ

## 丹沢に咲くもう一つの桜(さくら)：オオシマサクラ

○春の丹沢では、たくさんの白い花をつけたオオシマサクラの木も目につきます。花も葉も大きく、花びらのさしわたしは、2cmくらいあります。丹沢の山道に桜の花びらが落ちていたら、その大きさが1cmくらいならマメサクラ、2cmくらいあればオオシマサクラと思ってよいかもしれません。

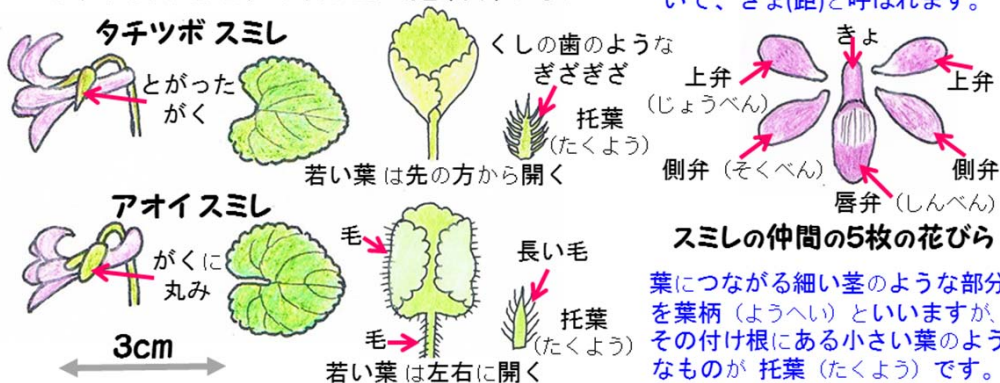
○オオシマサクラは、花が咲いている間に緑色の若葉がどんどん大きくなります。その葉は、先がとがった卵形で、ふちがぎざぎざになっていて、さらに、ぎざぎざの先が糸のように細く伸びています。

○オオシマサクラは、伊豆大島や伊豆半島などでよく見られますが、エドヒガンという木とともに、ソメイヨシノを生み出した親の木として有名です。桜餅(さくらもち)を包む葉に利用されていることでも知られています。

○丹沢に咲く桜には、他にタカネサクラ、チヨウジサクラ、ヤマサクラ、カスミサクラ、オオヤマサクラなどもあります。

## タチツボスミシとアオイスミシ

タチツボスミシとアオイスミシの違いは？



スミシの花には5枚の花びらがあり、そのうち、下側の花びらの後方は筒のように突き出していて、きよ(距)と呼ばれます。

葉につながる細い茎のような部分を葉柄(ようへい)といいます。その付け根にある小さい葉のようなものが托葉(たくよう)です。

○春の丹沢の山道には、いろいろなスミシの仲間の花も咲いています。中でも目につくのはタチツボスミシで、3月半ばにふもとで咲き始め、桜(さくら)に少し先行して、しだいに高いところへ咲く場所を移します。

○うす紫色のスミシを見たら、ほとんどはタチツボスミシと思われませんが、似た花にアオイスミシがあります。少し小ぶりで、葉のうらにみずみずしい白い毛がたくさん生えています。春早くに咲くことでも知られています。

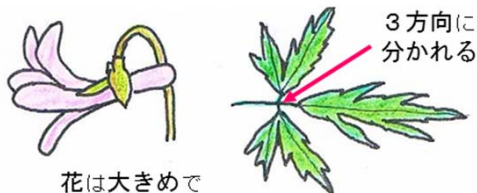


## 細かく分かれた葉のスミレ

丹沢で見ることができそうなスミレを14種類選んでみました。見なれないスミレの花に出会ったら、葉の形や花の色を比べてみてください。

3cm

エイサンスミレ



花は大きめで  
うすいピンク色か白色

ヒゴスミレ



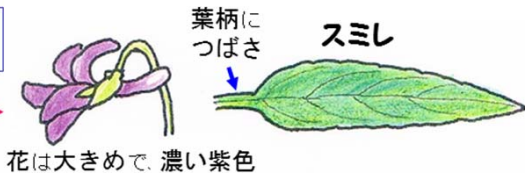
花は小さめで  
色は白色

○丹沢の山道では、エイサンスミレも所々で見かけます。ピンク色や白い色の花をつけ、春先の葉は、細かく入り組んでいるのが特ちょうです。

○同じように入り組んだ葉を春先にもつものにヒゴスミレがあります。少し小ぶりの白い花をつけ、葉が、付け根のところで5つに分かれています。エイサンスミレの葉は、付け根ではまず3つに分かれていますので、そこが、ヒゴスミレとの大きな違いです。

# 長い葉をもつスミシ

葉の長さが幅の3~4倍



葉の長さが幅の2倍くらい



葉の長さが幅の1.5倍



ヒナスミシ



花は大きめで、ピンク色

コスミシ



7 花は大きめで、うす紫色



がくが反る



花は小さめで、白色

コミヤマスミシ





# ハート形の葉をもつ スミレ

葉の長さは幅とほぼ同じ

大きめの花が多いけれど

小さいものも

うす紫色やうすい青色



タチツボスミレ



まっすぐなきよが多い  
が、上に反るものも

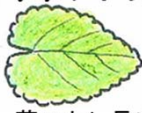
アオイスミレ



花は小さめで、うす紫色  
きよは太めで、上に反る

葉の裏にたくさんの毛

ニオイタチツボスミレ



花は大きめで、うす紫色

葉は少し長め

タチツボスミレには、いろいろ変わったものがあり、オトメスミレ（花びらの色が白、きよはうす紫）、シロバナタチツボスミレ（花全体が白）、アカフタチツボスミレ（葉脈が赤紫）、ケタチツボスミレ（葉や茎に毛）、ケイリュウタチツボスミレ（水につかることがあるような場所）などの名がついています。

マルバスミレ

（ケマルバスミレ）



花は大きめで、白色

葉に毛

シコクスミレ



花は小さめで、白色  
きよは短い

ツボスミレ

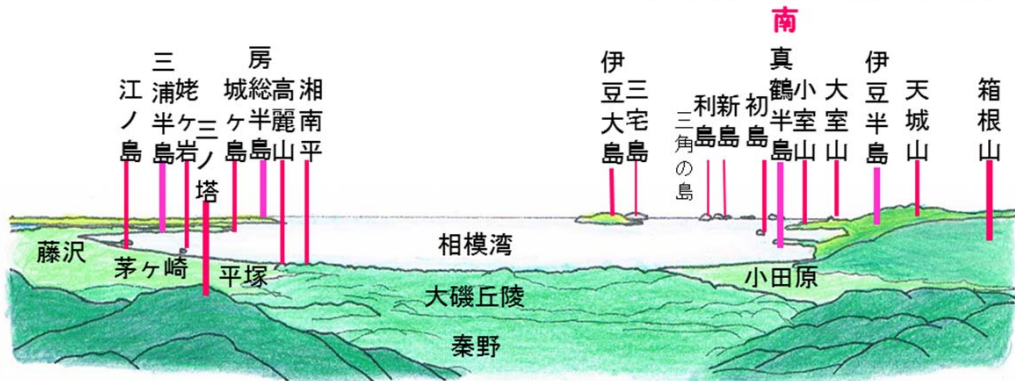
（ニョイスミレ）



花は小さく、白色  
きよは短い

## 見下ろす海、相模湾(さがみわん)

塔ノ岳山頂へ登ると、南側に相模湾が広がっていて、その沖には、伊豆大島がかすんで浮かびます。

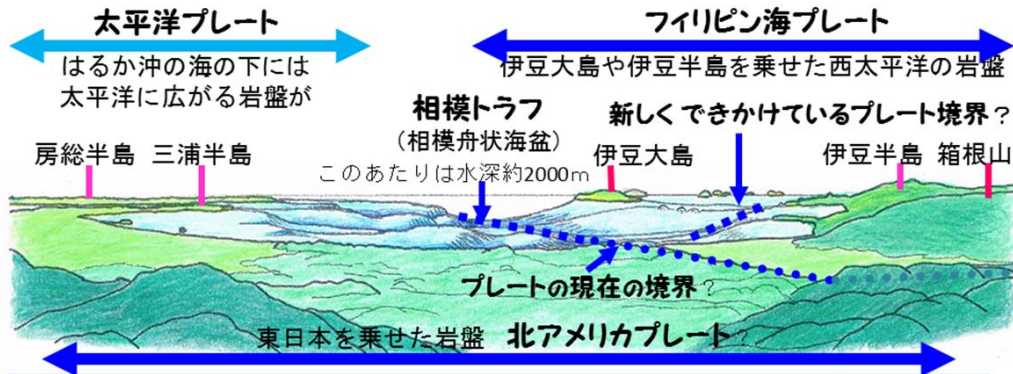


○地球の表面を、プレートと呼ぶ十数枚の岩盤に区分する考えが広まっています。丹沢の山は東日本の岩盤(北アメリカ大陸から細く続くプレートの西端)、伊豆大島は西太平洋の岩盤(フィリピン海プレート)に乗っています。

○一方、はるか沖合いの海の下には太平洋プレートがあり、目を右に移すと、お天気なら、西日本の岩盤(ユーラシアプレートの先端)に乗った南アルプスの山々も見えます。塔ノ岳は、いくつものプレートを一望できる大展望台です。

## もしも、海の水が無かったら

北アメリカプレートの先端は、アリューシャン列島までとしたり、北海道の日高山地の西までとする考えがありました。近年は、相模湾までのばす考えが広まっています。



○相模湾には、房総(ぼうそう)半島の沖から深い海底谷(かいていこく)がのびてきていて、相模トラフと呼ばれています。谷は伊豆大島の手前を通り、相模湾の西部を北上して小田原方面に上陸し、さらに箱根山の北側を回って、駿河湾(するがわん)の海底谷へつながっていくと考えられます。

○相模湾の海底谷は、東日本の岩盤と西太平洋の岩盤の境目とみなされます。伊豆半島などを乗せた岩盤が、本州へぶつかってきている現場です。10

神奈川を初め、静岡、愛知、三重にかけての地域のギフチョウは、黒いすじの幅が広い傾向（けいこう）があると言われます。

アゲハチョウの仲間の多くは、後のはねにこのような突き出しを持ちます。



神奈川のギフチョウには、ここによく、黒い三日月形の模様（もよう）が出ます。

ギフチョウは、少し小型ですがアゲハチョウの仲間です。桜の花が咲く頃にさなぎから親になり、2週間ほどで姿を消してしまいます。そのはねは春にふさわしい明るい色をしていて、「春の女神」とも呼ばれます。以前は本州の各地に住んでいましたが、近年は数が減り、いなくなる地域も出ています。

## 春の女神：丹沢のギフチョウ

○丹沢山地のふもとやその近くの山林には、ギフチョウが細々と生きている場所があります。ギフチョウが住めるのは、春に明るく日光がさす雑木(ぞうき)林です。そういうところがほとんど無くなってしまった上、ギフチョウがいることが知られて、採集(さいしゅう)する人が取りつくしてしまう場所もありました。

○ギフチョウは、生まれた場所から遠くへ移動することは、あまりありません。そのため、長年にわたって親から子、孫(まご)へ命をつないでいくうちに、「はね」の模様(もよう)など、それぞれの地方ごとに少しずつ違(ちが)いが見られるようになりました。

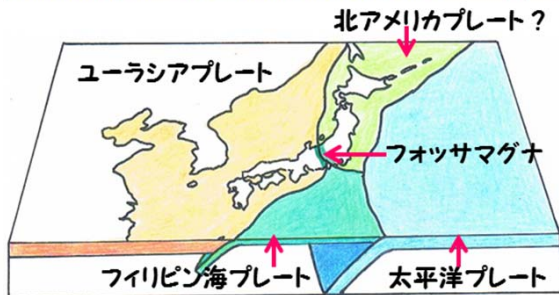
○神奈川県内でギフチョウが住む場所は、ごくわずかになっています。さらに、他県から持ち込まれたものが放された場所もあり、神奈川の遺伝子(いでんし)を持つギフチョウがこれからも生き続けられるかどうか、今のままでは、たいへん心配です。



## フォッサマグナ要素とは？

フォッサマグナは本州の中ほどにあり、本州を東と西に分けています。2000万～1500万年？くらい昔に日本列島を乗せた岩盤が大陸から切り離された頃、本州を東西に分けるさげ目ができ、やがて火山の溶岩や火山灰、砂、泥などで埋められた所がフォッサマグナです。比較的新しい時代に陸地になりました。

マメザクラやコイワザクラ、フジアザミなど、富士や箱根、丹沢、伊豆地域だけ、あるいはその地域で特に多く見られる虫や植物があります。それらは、富士箱根要素とか、その場所がフォッサマグナ地域の一部なので（北部フォッサマグナ地域は含まれませんが）**フォッサマグナ要素**と呼ばれたりします。



ギフチョウは、富士、箱根、伊豆地域には住んでおらず、丹沢でも西丹沢で見かけた例はほとんどありません。このように（周りの地域には居るのに）この地域が分布の空白になっている虫や植物は、**非フォッサマグナ要素**などと呼ばれます。ギフチョウは、長い年月をかけて丹沢北部や東部に分布を広げてきましたが、近年はそれがストップし、生息場所がごく限られてしまいました。

○神奈川や静岡、山梨の動植物を調べている人の間では、フォッサマグナ要素という言葉が使われることがあります。「南部フォッサマグナ要素」と

13 言う方がふさわしいでしょうが、これには、どんな意味があるのでしょうか？



「百名山自然ガイド」は、山歩きの楽しみをいっそう大きくすることのお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。丹沢では、四季それぞれに分けた案内を下記に掲示しました。機会がありましたら、別の季節の丹沢もお訪ねください([http](http://) から [https](https://) へ変更しました)。

<https://yama3823.com/100meizan/tanzawa/index.html>



左のアドレスのQRコードです

なお、いろいろ思い違いもありそうです。間違いにお気づきのときやご感想など、お寄せいただけると嬉しいです。 [yama\\_3823@yama3823.com](mailto:yama_3823@yama3823.com)  
(メール送付のときは、添付ファイルはつけないようお願いできるでしょうか)

- 山では、ちょっとした不注意や判断ミスが事故につながります。  
安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。
- ほとんどの山で、登山届の提出が求められています。  
予定のコースや日程を、入山前に届け出ましょう。
- 動植物や岩石の採取等が禁じられている区域がたくさんあります。  
そうでない場合も、ありのままの自然を大切にしましょう。
- ごみの放置は、生態系に大きな影響を与えます。  
ごみは、各自で持ち帰りましょう。

# 春の尾根道の花

春に咲くリンドウの仲間が3種類、お天気のよい昼間にだけ花を開きます。筒形の花の先が10に分かれ、10枚の花びらのように見えます。

## コケリンドウ

花は白か  
うすい青。  
根元に  
やや  
大きな葉



## キクサキイチゲ (キクザキイチリンソウ)



白のほか、青や、淡い  
ピンク色の花も

がくの一部  
が変化して  
花びらみた  
いです

## コイワ サクラ



ピンク色  
の花

3cm



## フデリンドウ



花はうすい青か青紫  
茎の途中に小さい葉

## ハルリンドウ



花はうすい青か青紫。  
根元の大きな葉は、早  
くに枯れてしまいます

## ワチガイソウ



あずき色の花粉の袋が  
白い花びらの上についた  
もようみたいです

## ツルシロカネソウ (シロカネソウ)



がくの一部が変化して  
純白の花びらのように  
なっています

シカに食べられたり持ち去りを受けて、花が数を減らしているのが心配です。

## 作成記録: 主な変更点

- 2019年6月作成.
- 2020年2月, 10頁新島の位置を取り違えていたのを訂正.
- 2020年4月, ホームページ掲載.
- 2023年3月, 表紙, 14頁など変更. 各頁の文字の大きさ等調整. ホームページ入れ替え.